

ば・あ・や・の・う・け・う・り

「運転」

83歳の夫へ、車の運転をやめさせるために、奥様が書いた覚悟の手紙が新聞に…。(抜粋)

「この年になって離婚なんかしたくないが、自分の命に代えても人命を守る。あなたの不自由と人の命を危険にさらすことは、天秤にはかれません。加害者の家族にはなりません。孫たちをを悲しませることはできません。」

「離婚調停を申し立て、裁判も考えています。50年の結婚生活を、車の運転ごときで幕引きするのは、情けないがやむを得ません。」

「今日中に業者に連絡して車を処分して下さい。さもないと、残りの人生を別々に生きましよう。50年間お世話になりました。」これを読んだ日に、夫は業者を呼び車を処分した…。家族や親せきの人たちが、必死になってやめさせようとしていたのが、想像できますね。

高齢者の免許証返納は、能力の個人差もあり、年齢では決められないけど、確実にある「ターニングポイント」…それは、冷静に見ている周囲の人達が、「もう、やめたほうが安全…」と、言ってくれた時。それを素直に受け入れる能力があるうちに…と、予備軍の私も。

コロナ禍で延期になっていた守山中の3年生の修学旅行が、10月に2泊3日で山梨県へ。2日目…偶然テレビで山梨県側の「真っ青な空に冠雪の富士山」がきれいに中継されて、富士急ハイランドで楽しむ姿が想像できました。その後、コロナ感染もなく、先生方も、安心されたことでしょう。

10月31日に谷田川小学校の運動会。6年生には…思い出のページがふえて良かったですね。種目も…見学者も限られ、午前中で終了。それでも…ダンスと玉入れを混合したした種目もあって、「可愛いくて…楽しかった…」と。先生方のご苦労と工夫は、大変な事です。でも、そのおかげで子ども達の笑顔…喜びが、上書きされていくことでしょう。

用事ができ、30年ぶりくらいで船引町へ秋晴れの日、ドライブ気分がウキウキ…だったが、三春町のある看板が目に入ってドキッ…、それは、「富岡町飯〇〇〇〇」の看板。 そうだ…288号線は、福島第一原発に続く道だった。事故後、放射能の恐怖から、たくさんの車列が走り抜けた…アフガニスタンの人達のように…。お客様が、「コンビニも全部ダメ…店が開いて良かった…トイレ貸してください」と。私は、せめて…水とトイレと明かりだけでも…と、店を開けていた。 あれから10年…女子高生さんは、ママさんになったかな…？
ふる里を追われ逃げきし道なれど
愛しき君へ出会う道にも



朝寒や体まるめて夢うつつ